

令和2(2020)年度  
肉用牛肥育農家へのアンケート調査  
結果報告書

— 肉用牛肥育経営に関する調査 —

令和2(2020)年 11 月  
栃木県農政部畜産振興課

## 【肥育】

### 【調査概要】

#### 1 調査項目

- (1) 経営の概要
- (2) 県への要望、支援を求めること等

#### 2 調査対象

県内すべての肉用牛（肥育）農家 203 戸  
（家畜伝染病予防法第 12 条の 4（定期の報告）に基づく）

#### 3 調査時期

令和 2（2020）年 8 月

#### 4 調査方法

郵送法（郵送配布—郵送回収）  
一部、ファクシミリによる回収

#### 5 調査実施機関

栃木県農政部畜産振興課

#### 6 回収結果

アンケート用紙を配布した 203 戸のうち、114 戸から回答があり、回答率は 56.2%である。

#### 7 報告書の見方

- (1) n は、回答総数または分類別の回答者数を表している。

また、M.T. とは、複数回答の設問の回答数を示す記号である。「複数回答」と記載のある質問は、複数回答を認めているため、回答計が 100%を上回る。

- (2) 百分率（%）は、小数点以下第 2 位で四捨五入し、小数点以下第 1 位までを算出した。そのため、比率の合計値が 100%にならない場合がある。また、本文中の数値と図表の各項目の合計値が一致しない場合がある。

## 【調査結果概要】

## I 経営に関すること

## 1 経営内容

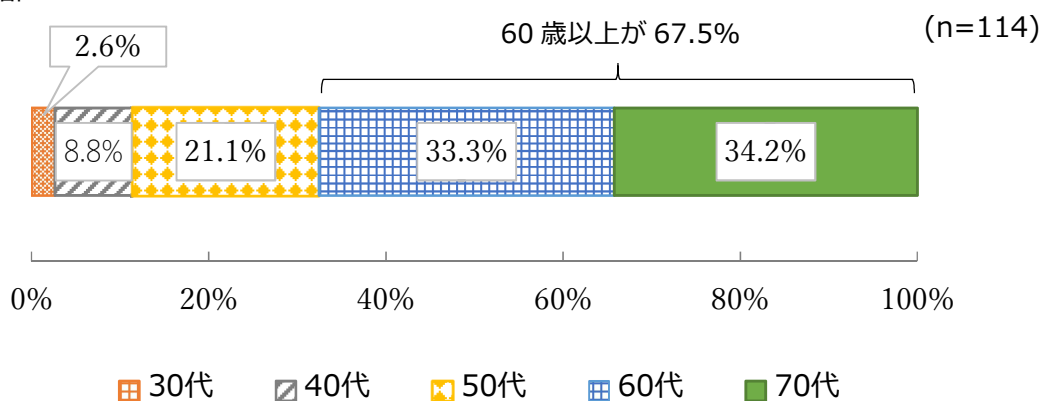
## (1) 居住地域

表1 回答者の居住地域

項目 \ 地区	河内	上都賀	芳賀	下都賀	塩谷 那須南	那須	安足	計
回答者数(人)	12	8	4	38	17	28	7	114
割合(%)	10.5	7.0	3.5	33.3	14.9	24.6	6.2	100.0

## (2) 年齢

図1 回答者の年齢



## (3) 飼養頭数

農林水産省の畜産統計に準じて飼養規模別に戸数を集計し、表2に示した。

回答者113戸の平均飼養頭数は232.2頭(中央値71.0頭)である。

表2 肥育牛の飼養規模別飼養戸数・頭数

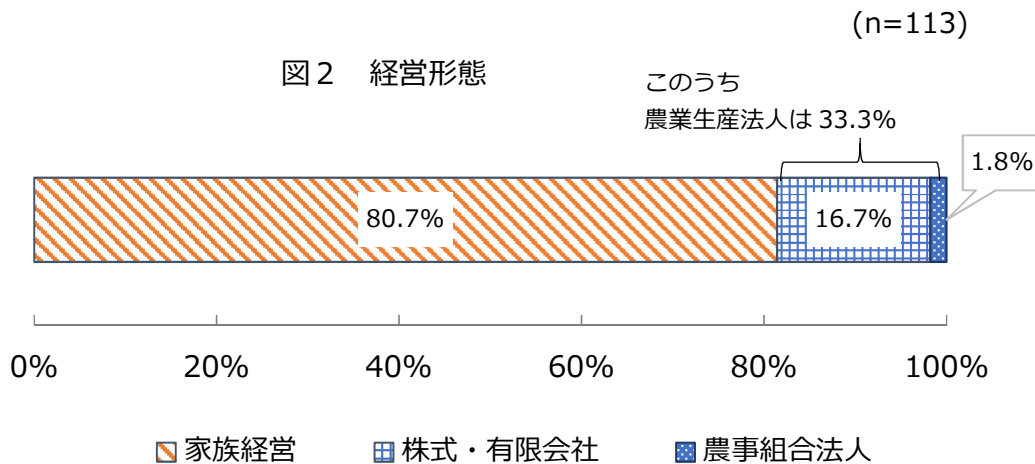
区分	計	1~9頭	10~19頭	20~29頭	30~49頭	50~99頭	100~199頭	200~499頭	500頭以上
飼養戸数(戸)	113	15	12	8	14	18	21	12	13
割合(%)	100.0	13.3	10.6	7.1	12.4	15.9	18.6	10.6	11.5
平均飼養頭数(頭) (中央値:71.0)	232.2	5.1	12.2	22.1	38.4	75.4	144.3	286.8	1,344.2
全飼養頭数に占める割合(%)	100.0	0.3	0.6	0.7	2	5.2	11.5	13.1	66.6

【肥育】

(4) 経営形態

家族労働力のみでの肥育農家は 80.7%となっている。

また、株式会社、農事組合法人等法人経営のうち、33.3%が農業生産法人である(図2)。



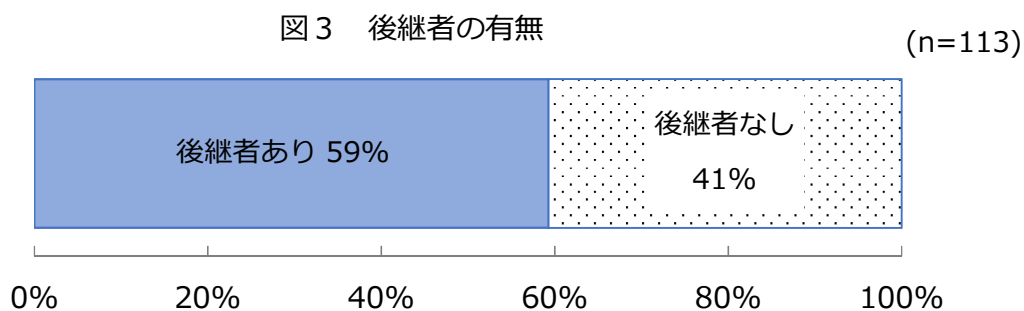
(5) 労働力

家族経営（家族労働力のみ）の肥育農家における労働力は平均 2.6 人、法人経営では平均 10.0 人となっている。また、研修者を雇用している肥育農家はない（表3）。

表3 労働力の状況

経営形態	区分	経営体数 (戸)	労働力		
			家族	雇用	研修者
家族経営	戸数(戸)	92	92	11	-
	平均人数(人)	2.6	2.3	2.4	-
法人経営	戸数(戸)	21	18	16	-
	平均人数(人)	10.0	3.2	9.6	-

(6) 後継者



## 2 経営に関する取組

## (1) 5年後の経営規模

5年後の経営規模については、57.1% (64人) が現状維持、23.2% (26人) が規模拡大、19.6% (22人) が規模縮小を予定している (図4)。

規模拡大を予定する26戸の内訳は、肥育牛のみを増頭する農家が12戸 (46.2%)、繁殖・肥育一貫経営で繁殖雌牛のみを増頭する農家が1戸 (3.8%)、肥育牛と繁殖雌牛の両方を増頭するのは2戸 (7.7%)、肥育経営に新たに繁殖雌牛を導入する農家は4戸 (15.4%) となっている (表4)。

図4 5年後の経営規模 (予定) (n=112)

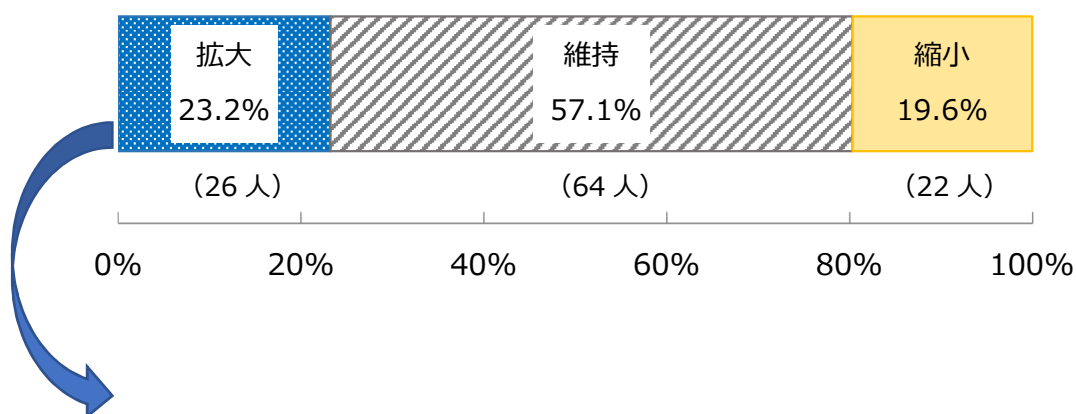


表4 規模拡大の概要

概要	農家数 (%)	平均増頭数
規模拡大予定	26戸 (73.1)	162.7頭
肥育牛を増頭	12戸 (46.2)	225.2頭
繁殖雌牛を増頭	1戸 (3.8)	70.0頭
肥育牛と繁殖雌牛を増頭	2戸 (7.7)	肥育牛 55.0頭 繁殖牛 90.0頭
肥育経営に新たに繁殖雌牛を導入	4戸 (15.4)	7.5頭

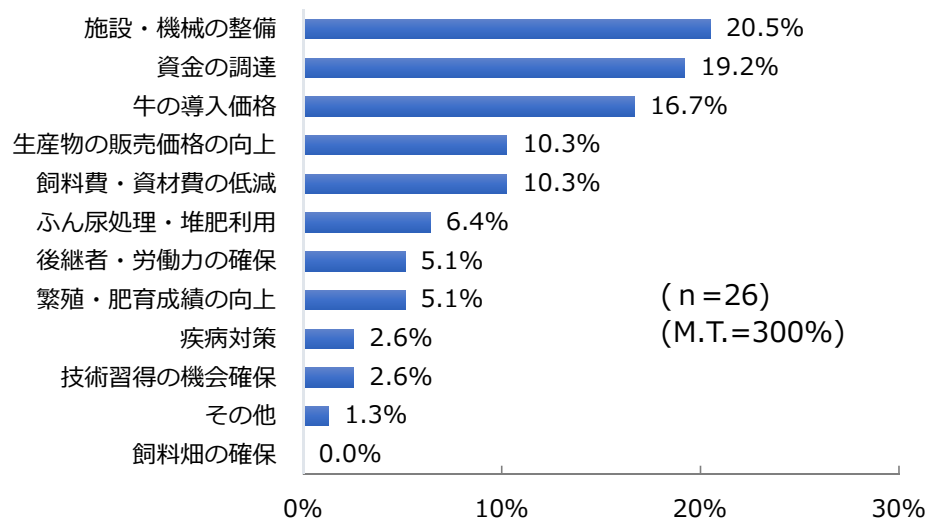
増頭数については回答なし 7戸 (26.9%)

## 【肥育】

### (2) 規模拡大の課題（複数回答）

5年後の経営で規模拡大を予定している26戸に聞いたところ、規模拡大の課題について、20.5%が「施設・機械の整備」、19.2%が「資金の調達」、16.7%が「牛の導入価格」と回答しており、コストに係る課題が上位3位を占めている（図5）。

図5 規模拡大の課題



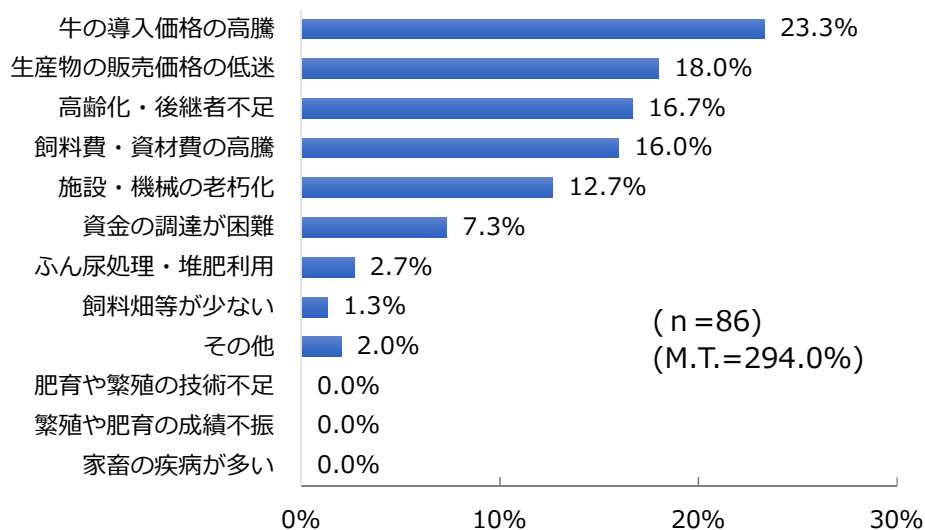
#### <その他の意見>

- ・法人経営～6次化への分野開拓

## (3) 現状維持・規模縮小の理由（複数回答）

5年後の経営で現状維持や規模縮小を予定している86戸に理由を聞いたところ、23.3%が「牛の導入価格の高騰」、18.0%が「生産物の販売価格の低迷」、16.7%が「高齢化・後継者不足」、16.0%が「飼料費・資材費の高騰」と回答している（図6）。

図6 現状維持・規模縮小の理由



## &lt;その他の意見&gt;

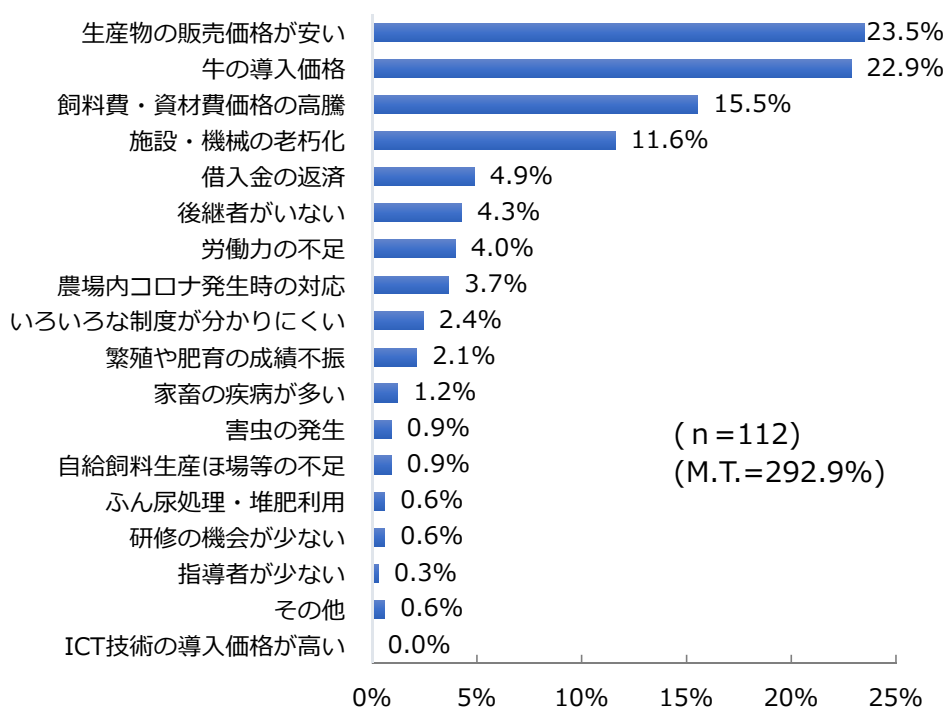
- ・肥育経営では導入価格や販売価格によって利益の出ない牛が多く、儲からない
- ・コロナの影響で先行きが見えない。当面は状況を静観したい

## 【肥育】

### (4) 経営上の課題（複数回答）

すべての肥育農家に現在の経営で困っていることを聞いたところ、23.5%が「生産物の販売価格が安い」と回答し、22.9%が「牛の導入価格」と回答している（図7）。

図7 経営上、困っていること



#### <その他の意見>

- ・子供に譲るときの税金・税務対策及び敷地の宅地許可
- ・コロナによる枝肉価格の低迷

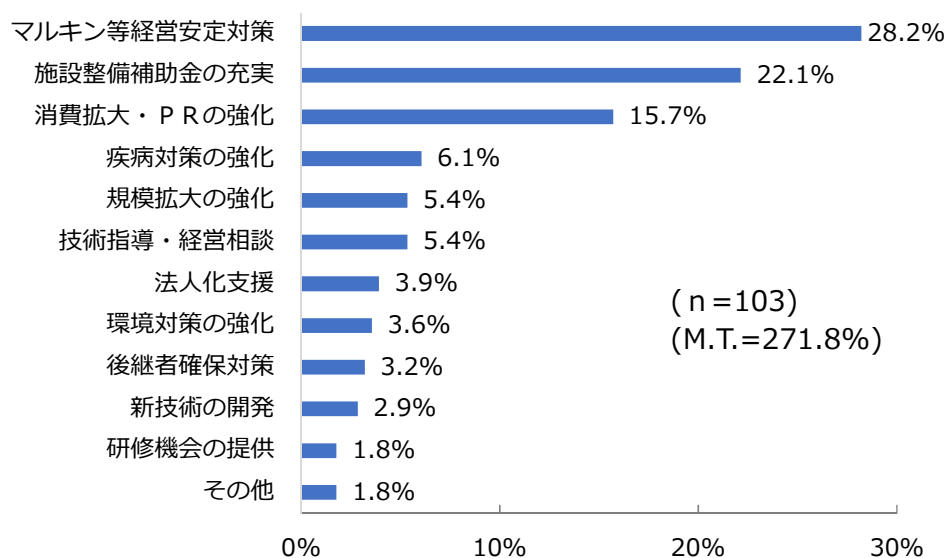


## II 県への要望

### 1 県に支援を望むこと（複数回答）

県が現在行っている肉用牛支援策について、更なる強化を求める項目を聞いたところマルキン等経営安定対策（28.2%）、施設整備補助金の充実（22.1%）、消費拡大・PRの強化（15.7%）に対する要望が多い（図8）。

図8 県に支援を望むこと



#### <その他の意見>

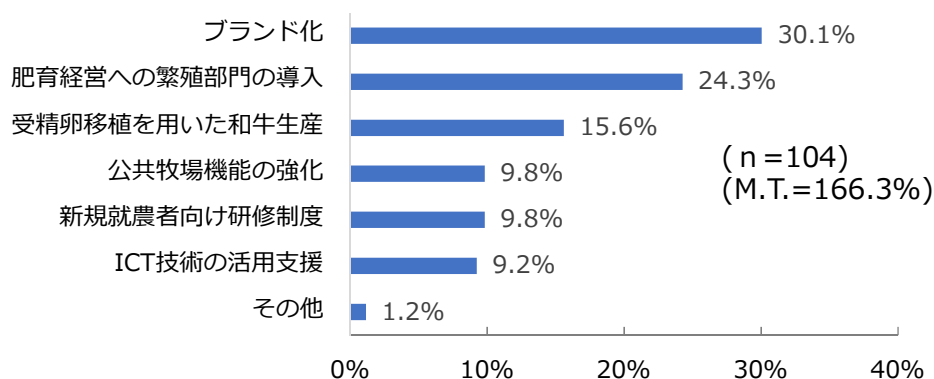
- ・子牛生産補給金の内容が実態とかけ離れている。特に子牛育成農家に対して、至急対策をお願いしたい。肥育農家と子牛育成農家を分けて考えてほしい
- ・肥育経営で後継者に経営を移譲する場合、贈与税の問題が発生し移譲が困難である
- ・増頭資金の確保、ヘルパー支援

## 【肥育】

### 2 県に支援を望むこと（新たな支援）（複数回答）

肥育農家が必要とする新たな肉用牛支援策に対する要望を聞いたところ、ブランド化（30.1%）、肥育経営への繁殖部門の導入（24.3%）、受精卵移植を用いた和牛生産（15.6%）に対する要望が多い（図9）。

図9 県に求める新たな支援



#### <その他の意見>

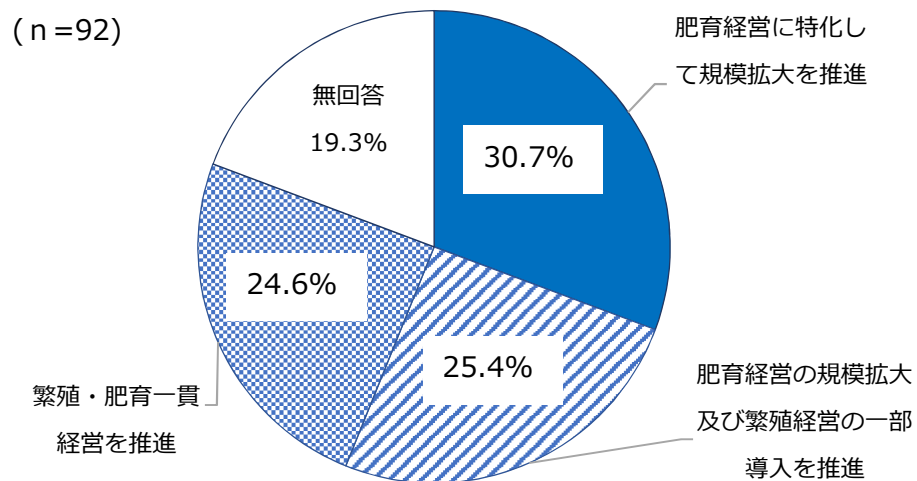
- ・茨城県のように、「とちぎ和牛」を栃木県ブランドとして広く使えるような支援
- ・職場環境（従業員住居、休憩施設、更衣室等）の整備や従業員の免許・資格取得時の費用負担に対する支援
- ・子牛（素牛）の大生産基地である北海道地区とそれ以外の地区では規模や助成事業に差があるので、地域の実情に合った支援を検討してほしい

### 3 本県の肉用牛振興

肉用牛生産振興の方向性について、どのように考えているか聞いたところ、肥育経営に特化して規模拡大と回答した農家が30.7%である。

また、肥育経営の規模拡大及び繁殖経営を一部導入と回答した農家が25.4%、繁殖・肥育一貫経営の推進が24.6%と、50.0%の農家が繁殖経営導入の振興を希望している（図10）。

図10 肉用牛の生産振興  
(経営の方向性をどのように推進することが望ましいか)



## 【肥育】

### 4 その他、自由意見

#### ○ブランド化について

- ・ブランドの強化を、県及び全農とちぎ、生産者が一体となって取り組む新たな組織が必要と思われる。
- ・栃木県産ブランドの販売強化（とちぎ和牛 etc 県内での消費拡大）を希望。  
仮称「栃木県肉用牛推進協議会」など県知事がトップになることが望ましい。
- ・規模拡大を進めるためには、県の政策と JA は別と考え、個々・地域で独自ブランドを総括するのが「とちぎ和牛」であるべき。現在の政策を撤廃し、広く県内の肥育牛が「とちぎ和牛」となれば2倍以上の「とちぎ和牛」が出回り関東 No.1 必至であるとする。

#### ○鳥獣対策について

- ・野生の猿、猪、鹿、狸、ハト、カラスの被害で大変困っている。市役所の補助で柵・アミ・電柵等を設置したが、猪・猿にはあまり効果がなく牛のエサ箱、タンク飼槽に入り放題で、徐々に人間に近づき威嚇するようになっており、危険を感じている。県に真剣に対応を考えてほしい。

#### ○資金面について

- ・畜舎の整備による規模拡大を目指している。資金・技術面で支援をお願いしたい。
- ・繁殖牛を増やしたいと思っても、資金面を考えると難しい。
- ・マルキンへの県上乗せ補助をやってほしい。
- ・コロナの影響により先行きが見通せない。  
拡大一辺倒の政策では、足を踏みはずすことが心配。
- ・牛の流動資産としての扱いが大変負担となっており、導入借入資産が増え、利益がなくても所得税を支払い、資産が増えても2年近く販売が出来ない状況。交雑種から和牛に変え、棚卸資産が毎年増え所得税を支払っている状況で厳しい。

#### ○相続税について

- ・相続が発生すると数千万円納付、頭数が少なくなり経営がアウトとなる。  
今のうちに肥育をやめようかとも考えている。
- ・畜産農家は相続問題で（税金対策）法人化する農家が増えているが、今の状況下では余計な経費が増すだけで、メリットがない気がする。  
相続税の緩和が出来ればよいので、国へ緩和をお願いしてもらいたい。

#### ○公共牧場について

- ・肥育に特化することが当然だと思っていたが公共牧場やキャトルセンターへの預託に興味を持ったので、経営例などの情報が欲しい。